

おしかたふたがみ

神楽名

# 押方二上神楽

伝承地

二上神社氏子集落  
高千穂町大字押方

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

二上神楽保存会  
代表 甲斐 重吉



七貴人

## ◆ 神楽の概要・由来・その他

二上神社の氏子は、山附公民館区やまつきの3集落42世帯、跡取川公民館区あととりがわの2集落25世帯、三原尾野公民館区みはらおの16世帯で構成され、夜神楽は6集落の廻し当番で行われる。高千穂町から熊本県に延びる国道218号線沿いの五ヶ瀬町山境に、日向風土記逸文ひゅうがふどきいつぶん、日本書紀一書第四項に、瓊々杵尊いにぎのみことが天降りされたと記される二上山ふたがみやまがある。雄岳おだけ・雌岳めだけが連なる二上山は、古くから伊邪那岐・伊邪那美神を祭祀する信仰の山で、麓に鎮座する二上神社だいごは醍醐天皇しゅうたいの昌泰元年（898年）に社殿が創建されたと伝えられている。境内地には拝殿・本殿のほか、祓所はらえじよ・神輿殿みこしでん・神楽殿・宝物殿などがあり、旧拝殿社には三十六歌仙の天上絵が描かれ、高千穂郷社の面影を残している。神庭の設えが特徴的で、二上神楽の「彫り物えもの」は、陰陽五行説による、鳥居ゆだすき・湯櫓かんしを中心に干支の切り絵が飾られる。高天原を象徴する「雲」と称される天井中央の天蓋には、日の丸の布を張り、木火土金水の彫り物を飾る。神庭づくりから一切を、元締めもととの采配のもと執り行っている。

## ◆ 芸能の機会・場所

- 押方二上夜神楽... 12月3日に最も近い土・日曜日、二上神社で神事後、公民館にて奉納

## ◆ 演目一覧

ごしんこう みちかぐら  
御神幸・道神楽

ちんじゆ  
鎮守

おきえ  
沖逢

やつぱち  
八鉢

ゆみしょうご  
弓正護

柴引き

しめぐち  
注連口

みこうや  
御神屋

すぎのぼり  
杉登

いわくぐ  
岩潜り

ごこく  
五穀

住吉

たちからお  
手力男

くりおる  
繰下し

彦舞

じがため  
地固

だいじん  
大神

しちきじん  
七貴神

やまもり  
山森

うずめ  
鈿女

くもおる  
雲下し

たいどの  
太殿

ひかんぜ  
幣神添

たちかんぜ  
太刀神添

ごしんたい  
御神体

日の前

戸取り

神下ろし

ぶち  
武智

おんしば  
御柴

ほんばな  
本花

伊勢神楽

まいびらき  
舞開

※平成28年12月の神楽奉納番付に基づく

## ❖ 演目の特徴

高千穂町内の他地区と比べ、舞のテンポが速い。同じ系統の神楽に、五ヶ瀬町桑の内神楽、高千穂町芝原神楽がある。「七貴神」は出雲神話の主神・大国主神が、7人の子神を次々招き入れ教示鍛える舞で、最後の杵舞では、外注連の前縁に置かれた火鉢の灰を見物客にまく。灰を被った人は無病息災の御利益があるといわれる。「御神体」では、見物客の男女を引き込んで杯事を行う。火伏神楽である「日の前」では、舞の途中で4人の舞い手のうち2人が交代で台所に行き、竈を守る人（地区の女性）によって、竈の炭粉を顔に塗られる。この演目が岩戸五番（「伊勢神楽」「柴引き」「手力男」「鈿女」「戸取り」「舞開」の六番）の口開けとなり、最後に「注連口」「線下し」「雲下し」で神を送って終了する。

## ❖ その他の特徴

- 面... 猿田彦、入鬼神、地割荒神、七貴神、御神体、柴荒神、手力男、鈿女、戸取 等
- 楽... 太鼓、笛(横笛)
- 装束... 白衣、白袴、麻の素襖、千早、裁着袴、毛笠、どっさり、烏帽子、鉢巻、宝冠 等
- 採り物... 鈴、榊、舞扇、御幣、荒神杖、弓、矢、刀、櫛、折敷、杵、穀物、藁包 等
- 文書... 「二上神楽保存会 神代御神楽様表」 等

## ❖ 伝承の現状・課題

神楽保存会会員は17名で、40代から60代前半の舞手が大半を占めている。国内だけではなく海外公演も行う。パイプオルガン奏者とのヨーロッパ公演等の実績、県外の方に神楽舞いの弟子入りを認めた例もあり、他の地域との交流も積極的に行い伝承に努めている。



鎮守



御柴



鈿女